

「教科内容構成研究」授業
シラバス例

「日本古典文学教育と教科内容学」及び「『教科内容構成研究』授業実践報告」に関するシラバス（授業計画書）7点、

- ・日本古典文学教材研究
- ・理科内容構成研究Ⅰ（物質環境科学）
- ・教科内容構成研究（公民分野）
- ・英語科教材研究Ⅰ
- ・平面授業構成研究
- ・初等音楽科内容構成研究
- ・初等体育科内容構成研究

の一部を掲載した。

授業科目・題目、履修年次、授業形態、授業の目的、科目の達成目標、授業の内容、授業の進め方を掲載し、時間割コード、単位数、開講学期、主担当教員、授業キーワード、テキスト、参考文献、成績評価の方法、オフィスアワーなどは省略した。

授業科目・題目	日本古典文学教材研究	履修年次	2・3・4年
授業形態	講義+演習		
授業の目的	<p>■ねらい</p> <p>中学校・高等学校の国語科における古典文学教材の実態を把握して教育実践に資することを主目的とし、同時に国語科の教材研究と指導に必要な基礎的な読解力・表現力の取得を目指します。</p> <p>■カリキュラム上の位置づけ</p> <p>日本古典文学（上代・中古・中世）に関する授業は、講義形式によって知識の取得と考察力の養成を目的とするA群と、演習形式によって古典文学の本文の読解力と評価・鑑賞の能力を育成するB群とに大別されます。B群の展開の最初に位置する本授業は、「内容構成研究」に含まれ、A群とB群の融合型であり、国語科教育法とも関連します。</p>		
科目の達成目標 (達成度)	<p>a. 日本古典文学・文学教育に関する基礎的素養を身に付ける。(日本古典文学, 国語科教師像)</p> <p>b. 日本古典文学教材の概要と内実を把握する。(問題意識・知識, 調査)</p> <p>c. 日本古典文学教材の問題点と可能性を発見し, 説明する。(論理的コミュニケーション, 分析・処理, 国語科リテラシー)</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 国語科のなかの古典文学－『一寸法師』を読む－ 3. 古典（古文）はなぜ学ぶか（1）／文章表現の基礎（1） 4. 古典（古文）はなぜ学ぶか（2） 5. 国語科教科書の中の古典文学（1）－教材としての『竹取物語』－／文章表現の基礎（2） 6. 国語科教科書の中の古典文学（2）－教材としての『竹取物語』－ 7. 古典文学教材の研究と開発（1）－発表1－ 8. 古典文学教材の研究と開発（2）－発表1－ 9. 古典文学教材の研究と開発（3）－発表2－ 10. 古典文学教材の研究と開発（4）－発表2－ 11. 古典文学の面白さと国語科教材／文章表現の基礎（3） 12. 古典文学教材の研究と開発（5）－発表3－ 13. 古典文学教材の研究と開発（6）－発表4－ 14. 古典文学教材の研究と開発（7）－発表5－ 15. まとめ 		
授業の進め方	<p>授業は、前半の基礎的講義・演習と後半の応用的演習とで構成されます。まず、前半で、古典文学教材の全体像を広域的に把握し、並行して読解・文章表現などの基礎的技法をも修得し、一部実践します。後半においては、毎時間1名程度の発表担当者を定めておき、任意の古典教材（23年度は『竹取物語』を予定）の意味・意義・問題点などについての発表と質疑応答によって授業が進行します。発表に際しては各担当者が資料（文献資料・発表の要点などをまとめたもの）を配布しておくこととなります。さらに、後日、授業中の討議とその後の探究などを総合して、最終的なレポートを作成し、提出します。</p>		

授業科目・題目	理科内容構成研究Ⅰ（物質環境科学）	履修年次	2・3・4年
授業形態	講義と実習		
授業の目的	<p>■ねらい：中学校理科第一分野（物理・化学）の教科書・指導要領の内容をより深く理解することを目的とする。そのために、教科書研究、実験法研究、教材開発について知識として学ぶだけでなく、創造的な活動ができるために必要な基礎的技量を修得する。</p> <p>■カリキュラム上の位置付け：理科内容構成研究に分類され、特に、教育実習の前段階に位置付けられる科目である。</p>		
科目の達成目標 （達成度）	<p>以下の3点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書・指導要領の内容を正しく理解できている。（理科教育課程1，2） 2. 実験を進める上での基礎知識、安全知識が備わっている。（物質環境科学（物理学）（物理実験）（化学）（化学実験）） 3. 身近な材料を用いて教材を作ることができる。（問題意識，表現力） 		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身のまわりの現象 2. 身のまわりの現象 3. 身のまわりの物質 4. 身のまわりの物質／電流 5. 電流 6. 化学変化と原子・分子 7. 化学変化と原子・分子 8. 運動と力 9. 運動と力 10. エネルギー 11. エネルギー 12. 科学技術と人間 13. 科学技術と人間 14. 発表会の準備，発表会 15. 発表会の準備，発表会 16. 試験 		
授業の進め方	講義、討論、実習、ホーム実験など、多様な授業形態をとる。最終段階では、教材作製を課題として課す。作製した教材をテーマに、各自15分程度の口頭発表を行なう。		

授業科目・題目	教科内容構成研究（公民分野）	履修年次	3・4年
授業形態	演習		
授業の目的	<p>■ねらい</p> <p>この授業は、中学校社会科公民分野にかかわる領域を対象とし、資料収集とプレゼンテーションの実践を行うことで、専門領域に即した教材作成に必要な知識と技術の基礎を身につけることをねらいとしています。</p> <p>■カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この授業は、「政治学概論Ⅰ・Ⅱ」および「社会学基礎」「社会学概論」で得られた知識や理解力を前提にして進められます。したがって、「政治学概論Ⅰ・Ⅱ」および「社会学基礎」「社会学概論」の既習を前提します。</p>		
科目の達成目標 （達成度）	<p>以下の2点を目標とします。</p> <p>a. 中学校社会科教育における公民分野の基礎的な理解の下に、教材作成の工夫ができる。（社会科教育課程、公民、社会系教科教材分析力）</p> <p>b. 実践前の生徒に対する理解をふまえながら教材研究、単元構成、授業設計を行う能力・技術を身につける。（論理的コミュニケーション、社会科授業開発力）</p>		
授業の内容	<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教材作成・テーマ決定／社会学分野 3. 資料収集の方法／社会学分野 4. 資料調査・発表（1）／社会学分野 5. 資料調査・発表（2）／社会学分野 6. プレゼンテーションの方法／社会学分野 7. プレゼンテーション実践／社会学分野 8. 教材作成・テーマ決定／政治学分野 9. テーマ概要の発表／政治学分野 10. 資料収集の方法／政治学分野 11. 資料調査・発表（1）／政治学分野 12. 資料調査・発表（2）／政治学分野 13. プレゼンテーションの方法／政治学分野 14. プレゼンテーション実践／政治学分野 15. 全体のまとめ 		
授業の進め方	<p>本授業では、受講者各々が社会科公民分野に関わるテーマを選び、資料収集を行った上でプレゼンテーションの形にまとめる教材作成の実践を行います。</p>		

授業科目・題目	英語科教材研究 I	履修年次	3・4年
授業形態	講義・演習		
授業の目的	<p>■ねらい</p> <p>この授業では、学習英文法に焦点を当て、英語教員に必要とされる文法事項の適切な説明能力を身につけることをねらいとします。そのために、文法の説明に必要な背景知識や考え方を修得するとともに、その知識を他者に分かりやすく伝えるための要約能力・情報提示能力を身につけることを目指します。</p> <p>■カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この授業は、英語科内容構成研究に分類される科目として、既習の英語学分野の諸科目（「日英対照言語学」「発音指導のための音声学」「英語の語法・構造の理解」「歴史的に見る英語の姿」）と学校教育実習Ⅲ、Ⅳの橋渡しをする科目として位置づけられています。</p>		
科目の達成目標 (達成度)	<p>以下の2点を目標とします。</p> <p>a. 英語学の知見から現在の学習英文法を批判的に検討し、学習者の理解を促すための説明を構築することができる。(第二言語習得, 英語学)</p> <p>b. a. の理解に基づいて具体的な授業を組み立て、教材を作成することができる。(英語科教材分析力)</p>		
授業の内容	<p>以下の内容を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 講義 教材分析の視点：現在完了形を例に 3. 講義 事例研究（1）関係代名詞 4. 講義 事例研究（2）不定詞の導入と展開 5. 講義 事例研究（3）後置修飾の考え方 6. 講義 事例研究（4）三単現の - s と助動詞 do 7. 講義 辞書・文法書の活用について 8. 演習 スキット作成（1） 9. 演習 スキット作成（2） 10. 演習 スキット作成（3） 11. 演習 スキット作成（4） 12. 演習 スキット作成（5） 13. 演習 スキット作成（6） 14. 演習 スキット作成（7） 15. まとめ 		
授業の進め方	<p>第7回までは講義、第8回からは演習となります。講義の週では、言語習得に関する基礎知識や中学校の教科書で扱われている文法項目の扱いに関して、担当教員がその考え方や問題点を言語学的な視点から講義します。演習の週では、担当受講生（3名程度）が文法事項導入のための教材（スキット）を作成し、それをグループで検討しながら改善点を探っていきます。</p>		

授業科目・題目	平面授業構成研究	履修年次	2・3・4年
授業形態	演習をともなった講義です。		
授業の目的	<p>■ねらい</p> <p>近・現代絵画に見られるスタイルや理念、制作手法などの学習をもとに、授業の教材として活用できる造生素材や手法について研究し、それらの素材や手法を用いた教材を開発し、授業として成立させるため実験的制作を行う。</p> <p>■カリキュラム上の位置づけ</p> <p>絵画の専門性（近・現代絵画史、コラージュ・マティエールなどの造形的意味の認識と感覚的理解、制作能力）と学校教材の研究を結び付ける授業です。教材を単なるアイデアでととしてではなく、絵画の専門的内容の裏づけを得ることで教材に対する真の理解を得ます。</p>		
科目の達成目標 （達成度）	<p>以下の4点を目標とします。</p> <p>a. 絵画の歴史と教材を結びつけ、教材が絵画の専門的内容を裏づけとして持っていることを理解する（学習者の表現理解）</p> <p>b. コラージュ等の造形表現を感覚的に理解し、また制作・表現ができる（絵画）</p> <p>c. 近・現代絵画表現から教材を想定できる。(美術科授業構想力)</p> <p>d. 絵画の専門的内容を学習者に教材として提供することの注意点や問題点を認識する（美術科授業展開力）</p> <p>e. 講評会で上記の問題に触れつつ自身の作品と学習指導計画の発表ができること（美術科授業評価・反省、論理的コミュニケーション）</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスによる授業説明－美術専門と教科書題材の関係について 2. 教材（1）コラージュ／マティエールの概念・美術的意味・手法等について 3. コラージュ・マティエール技法による制作演習（1） 4. コラージュ・マティエール技法による制作演習（2） 5. コラージュ・マティエール技法による制作演習（3） 6. 教材（2）アースワーク・環境芸術について 7. アースワークによる制作演習（1） 8. アースワークによる制作演習（2） 9. アースワークによる制作演習（3） 10. 美術科教科書に見る題材の美術的意義と内容 11. 美術科教科書題材研究 12. 美術科教科書題材による作品制作演習（1） 13. 美術科教科書題材による作品制作演習（2） 14. 美術科教科書題材による作品制作演習（3） 15. 作品・レジュメ発表、講評会とまとめ 		
授業の進め方	<p>近・現代美術の造形とスタイル、手法について講義をし、それらの手法による実験的制作します。</p> <p>近・現代美術作品について知ることによってそれが楽しい授業素材として活用できることを学んでください。</p>		

授業科目・題目	初等音楽科内容構成研究	履修年次	2・3・4年
授業形態	演習		
授業の目的	<p>■ねらい</p> <p>小学校音楽科の教育現場に対応できる音楽の基礎的な知識および表現能力を習得します。小学校の歌唱共通教材を用いたピアノによる弾き歌いの演習を通じて、読譜力、歌唱力、ピアノ演奏力を養うとともに、合唱などグループ学習の積極的な導入により、相互指導、創造力、合唱合奏の楽しさを学び、それらの体験を通して協調性、自主性を養い、小学校教員としての多様な音楽表現力を身につけます。</p> <p>■カリキュラム上の位置づけ</p> <p>小学校免許取得の選択必修の授業です。おもに理論的な点と個々の教材研究を重視する初等音楽科教育法概説（必修）に対し、実技を重視しています。両方を履修することで、バランスのとれた小学校音楽科の基礎的な指導力を培うことができるようになっています。この授業では、特に教員採用試験に課される歌唱共通教材の弾き歌いに対応できる力を養うことも念頭においています。</p>		
科目の達成目標 （達成度）	<p>以下の4点を目標とします。</p> <p>a. おもな歌唱共通教材について弾き歌いができる。（複合領域実践力、音楽科教育学）</p> <p>b. ピアノに関する基礎的な知識・技術を身につけ、バイエル70番以降の曲を弾くことができる。（児童・生徒の音楽表現）</p> <p>c. 範唱するために必要な声楽の知識・技術を身につけている。（児童・生徒の音楽表現）</p> <p>d. グループ活動として少人数の合唱に取り組み、期末に発表することができる。（音楽科協同実践・研究力、論理的コミュニケーション、音楽科授業展開力）</p>		
授業の内容	<p>声楽、ピアノを専門とする4名の教員が、それぞれ2人ずつ、受講生とマン・ツー・マン方式でレッスンをします（課題：独唱、独奏、弾き歌い）。また同時並行して、受講生をいくつかのグループに分け、歌唱、ピアノ伴奏、器楽などを交え、合唱を中心とした総合的な音楽表現を実習します。</p> <p>各回の学習活動のポイントは下記のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業関連アンケート） 2. グループ編成および声楽・ピアノ基礎演習1 3～9. 声楽・ピアノ基礎演習2～8、合唱グループ学習1～7 10. 合唱中間発表 11、12. 声楽・ピアノ基礎演習9、合唱グループ学習8、9 13. ピアノ独奏 14. 独唱 15. 歌唱教材弾き歌い 16. 課題演奏最終試験（独奏、独唱、弾き歌い、合唱） 		
授業の進め方	<p>歌唱、ピアノ伴奏の演習をそれぞれ講師のマン・ツー・マン方式で進めていきます。それと同時並行して、総合的な表現活動をグループ単位で行ない、講師による事前指導と打ち合わせを経て学期末に試演します。</p>		

授業科目・題目	初等体育科内容構成研究	履修年次	1・2・3・4年
授業形態	実習および講義		
授業の目的	<p>■ねらい</p> <p>この授業では、小学校体育科の授業で取り扱う教材の特徴や取り扱いなどを理解し、指導者として必要な体育科の教材に関する基礎知識と技能を身につけることを目指しています。</p> <p>■カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この授業で学んだ事柄をふまえて、2年次に履修する「初等体育科教育法概説」では授業の構成方法を学びます。また、この授業で学んだ事柄は、初等教育主専攻生用の専門科目である「教材とカリキュラム」における模擬授業の実践や教材開発の研究へとつながっていきます。</p>		
科目の達成目標 (達成度)	<p>以下の事柄を目標とします。</p> <p>a. 小学校体育科の各領域における教材の特徴を理解できる。(初等教育専攻生＝体育科の基礎知識と指導法)(健康・スポーツ教育専攻生＝学校保健, 器械運動, 陸上運動, 球技, ダンス)</p> <p>b. 小学校体育科の授業における各教材の取り扱い方を理解できる。(初等教育専攻生＝初等教科教材研究)(健康・スポーツ教育専攻生＝保健体育科教材分析力, 学習者の技術・身体理解)</p> <p>c. 現行の小学校学習指導要領における体育科の内容構成を理解できる。(初等教育専攻生＝学習指導要領)(健康・スポーツ教育専攻生＝学校保健, 器械運動, 陸上運動, 球技, ダンス)</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 担当：廣兼 2. ボール運動(投げる・捕る) 担当：中山 3. ボール運動(運ぶ・トレーニング的運動) 担当：中山 4. ボール運動(蹴球) 担当：中山 5. 器械運動(マット運動) 担当：境 6. 器械運動(跳び箱・鉄棒運動) 担当：境 7. 陸上運動(短距離走・リレー) 担当：斎藤 8. 陸上運動(ハードル走) 担当：斎藤 9. 陸上運動(走幅跳・走高跳) 担当：斎藤 10. 表現運動(リズムダンス・フォークダンス) 担当：廣兼 11. 表現運動(中学年の表現) 担当：廣兼 12. 表現運動(高学年の表現) 担当：廣兼 13. 保健(健康な生活・身体の発育発達) 担当：西村 14. 保健(けがの防止・病気の予防) 担当：西村 15. ふりかえりとまとめ 担当：廣兼 <p>*ただし、状況によっては、上記の順番を入れ替えて授業をおこなうこともあります。</p>		
授業の進め方	<p>各領域担当の教員が分担して指導します。</p> <p>授業は講義・実習・演習などにより、グループ活動をまじえて学習を進めます。</p>		